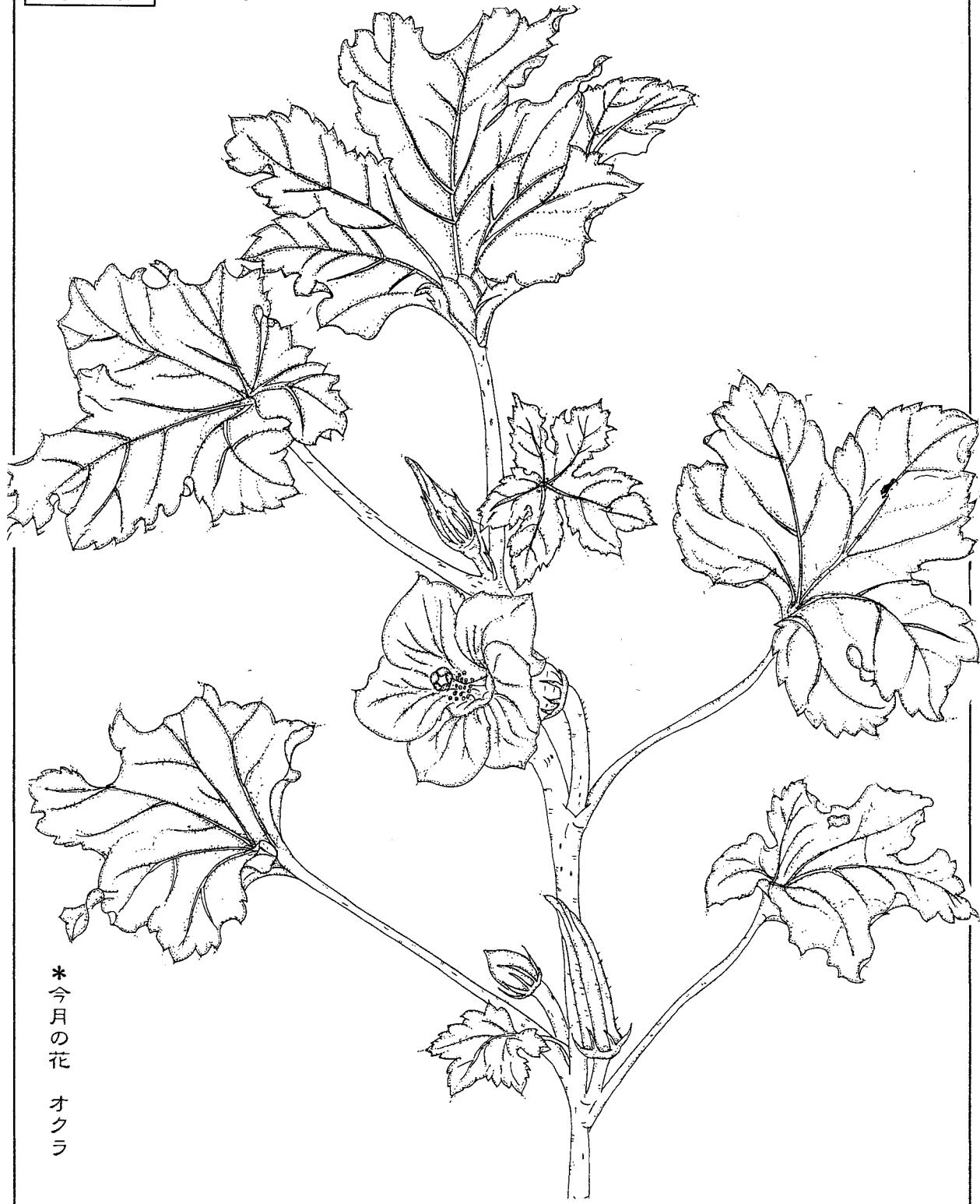


日本と朝鮮

2017.7

愛知版 No.408



* 今月の花 オクラ

『朝鮮通信使、尾張路の旅 ～江戸時代の善隣交流』



鎖国とされる時代を問い合わせし、日朝・日韓関係史の宝物掘り起します

「隣国人との交流、直で多彩だった」

使行録・市町村史料を読み込み、現地探訪をかさねた労作

『あとがき』から

【前略】小著では本来ならば鳴海宿以西の名古屋城下と美濃路での朝鮮使節の足跡を実証的に詳しく述べなければならない。しかし、今後そうした仕事を進めるには余りにも時間が必要で、そのため取りあえずこの分野の先行研究に依拠して大略を叙述する方法をとった。

幸い朝鮮通信使が記録した「全使行録」が日朝協会愛知県連合会

古屋の印象／饗応の宴／コラムのものなし／通行への備え／コラム【禪源寺の扁額】／清須の情景／コラム【蘇つた清須城下の姿】／コラム【名古屋に残る使節の遺産】／名古屋城下で待ち受ける人びと／コラム【文左衛門、書画を得る】／通行を支えた人びと／知らされた使節情報／コラム【祭りに取り

東阿野坂を行く朝鮮通信使／コラム【鹿肉が供された尾張の宴】／盛岡【桶狭間村に残る「朝鮮使節行列」】／コラム【東阿野村の名医三田家】／延享度使節団への施療／コラム【発見された宝暦度使節の書画】／金有声の絵画／朴徳源の書／三田家に残る謎の遺墨

によって刊行されている。小著の前半ではこれら使行録を読み進め、その記述内容を先行研究や市町村史が掘り起こした史実と付き合わせて起宿から名古屋城下までの足取りをたどり、後半の、鳴海宿や東阿野村で発見できた交流と合わせることで「尾張路の旅、善隣交流の足跡」の素描を試みた。そこには「鎖国とされていていた時代」にあって、尾張の人びとが隣国の人びとと直接的で多彩な交わりを積み重ねた姿があった。

小著で果たしてそれを上手く再現できたかどうか甚だ心許ないが、今後の研究の基礎の一つとなれば幸甚である。【後略】

よみがえる 使節の遺産

【目次】

はじめに
船橋を渡る／渡河の情景／船橋の規模／工事の期間と費用／大雨での渡橋／コラム【若松實さんが翻訳した使行録】
入れられた通信使／尾張藩・名濃路を行く／起宿から稻葉宿へ

／コラム【富田一里塚】／茶屋でのもてなし／通行への備え／コラム【禪源寺の扁額】／清須の情景／コラム【蘇つた清須城下の姿】／コラム【名古屋に残る使節の遺産】／名古屋城下で待ち受ける人びと／コラム【文左衛門、書画を得る】／通行を支えた人びと／知らされた使節情報／コラム【祭りに取り

宿唱和
阿野坂を行く朝鮮通信使／コラム【鹿肉が供された尾張の宴】／盛岡【桶狭間村に残る「朝鮮使節行列」】／コラム【東阿野村の名医三田家】／延享度使節団への施療／コラム【発見された宝暦度使節の書画】／金有声の絵画／朴徳源の書／三田家に残る謎の遺墨

【参考文献】
補章 雨森芳洲に学ぶもの

紹介と解説

尾張藩士の目に映じた朝鮮通信使行列

『琉球・朝鮮来聘記』（正徳元年）から

上 村 順 造

はじめに

故若松賞氏が古書店で購入された冊子『琉球・朝鮮来聘之記』（全二二〇頁）は、正徳元年（一七一二）に来日した第八次朝鮮通信使の記録である。

筆者は不明であるが、その内容から通信使接待にかかわった尾張藩士であることは、ほぼ間違いない。

記事の大半は江戸での幕府の接待の様子を記したものであるが、なかに、この年十月五日に名古屋に到着し、翌六日の朝、出立した通信使のことを記した箇所がある。

この部分は「朝鮮人名古屋泊りの節、御馳走仰せ付けられ候御役人の覚」（三八頁～六四頁）と「名古屋発足、行列之次第荒増〔あらまし〕」（六四頁～七六頁）からなる。

前者は尾張藩の接待体制を記したもので「鳴海宿の箇所は本誌（二〇一四年六月二七四号）で紹介」、後者は、筆者が目の当たりにした六日朝、名古屋を出発した通信使行列の有様を記したものである。

今回、通信使行列にかかる部分を全文読み下し文で紹介したいと思う。

先頭を行くのは、①尾張藩士足輕頭中川勝蔵の行列である。続いて②同じく尾張藩士御目付鈴木定左衛門の行列、続いて対馬より通信使に随伴してきた③対馬藩家老平田隼人の行列、このあと④朝鮮人の行列が続く。行列のなかで筆者は樂隊に興味関心を示しその描写は詳しい。朝鮮人一行のあと、再び⑤尾張藩士御目付水井太郎左衛門の一行が②と同じ供廻りを引き連れて続く。このあと五～六〇〇メートルの間をおいて⑥対馬藩主宗義方）の大行列が続く。このあと、行列は混乱し、千メートル余続くが、詳しく識別できなかつたと記す。

さらに、①の中川勝蔵の行列に先立ち、岡崎での朝鮮人荷物の差配役を命じられた⑦足軽頭星野三四郎の行列が出発していることも記している。

「通信使之次第荒増」は、一部は午前一時ころから出発を開始して、通信使行列全部が名古屋を通り切ったのは午前十一時頃であつたとして記事を結んでいる。



挟箱（はさみばこ）
【補注を参照】

記念・協賛！ この秋、

原文（写し。二十%に縮小）

の原文

読み下し文

【前略】

行列名

補注

一
船頭
平定海盜
年月
正月
年月
正月

朝鮮人並宗対馬守殿、十月
六日朝五つ時過、名古屋發足
行列之次第荒増（あらまし）左之通
先乘御足輕頭中川勝蔵

大対（しこ）対（はさみ）尻（はり）具（ぐ）足（あし）
挟箱（はさみばこ）道具（つい）はくま
鳥毛（おおとりげ）

勝藏 歩行十二人 刀筒 武

中 小 姑 六 人

奉馬 (ひきうま) 一
竿 (かん) 押 (おさえ) 合 (あわせ) 羽 (は) 駕 (か) 釣 (つり) 行 (ゆき) 也 (や)

右之外
相見ル
茶弁当 (ちやべんとう) 二
御目付

定左衛門
馬六一
上人立荷

武四馬六一

合羣筆

对州殿
老家人
内具足
二五平田隼人
三立馬
五足籠
六足馬
七足荷
八足犧
九足犧

②尾張藩士御目付 鈴木定左衛門の

①尾張藩士足軽頭 中川勝蔵の行列

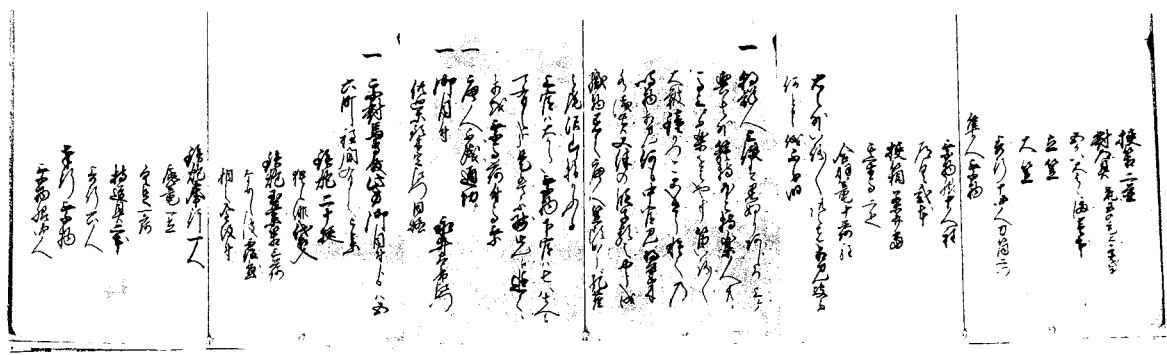
「尻筆」 = しの 矢を入れて携帯する道具



「**対道具**」はぐま = ついたぐま
ぐま 「対道具」道具は槍のこと、
二本のそろいの槍 「はぐま」は、
「はぐま(白熊)」のこと。「はぐま」
は、ヤクの尾の毛、払子(ほつす)
に作り、旗・槍・兜などの装飾用。

「大鳥毛」『おおとりげ』鷹、
鳥などの羽を集めて栗のいが状に
大きく作った裝飾の一種。馬印や
槍のさやなど。





6

1

9

右之外いろいろ、供之者相見岐而（みわけて）朝鮮人三使は、黒ぬりあじろ上ヶ輿、其外、旗持・ほこ持・樂人共二馬上ニテ樂をはやす。笛いろいろ大鼓・鐘・かづこ・こきう鳴物相見（何いすれ）も中官。裝束を見るに水浅黃（あきぎ）又練ねりの學（だんす）織物を着す。唐人笠頭から孔雀之尾沢山二指（さし）かぶる。上官ハ大かた乗物、下官ハ七八十人も有るべき候哉（や）、是は残らす先へ追々に相越、乘馬、荷付馬に乗る。唐人残らず通切テ御目付　永井太郎左衛門供廻（ともまわり）等、鈴木定左衛門と同故宗対馬守殿、此方御目付よりハ五六町程間有り、參ぜらる。

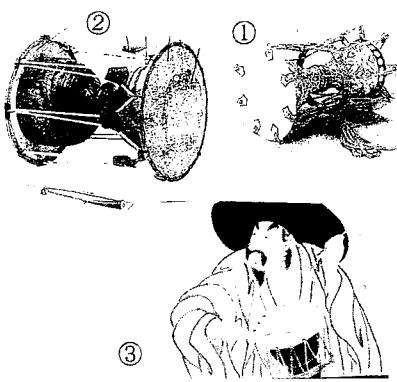
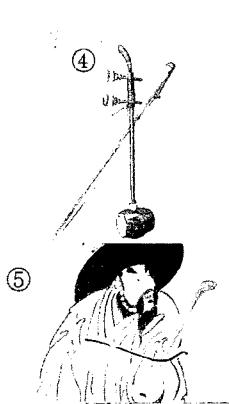
自付	回廻	馬守殿	町程間	鐵砲	猩々緋	鉄砲玉葉箱	桐之金紋付	なめし皮覆懸	二十挺	永井太郎左衛門
(ともまわり)	等、鈴木定左衛門と同	此方御目付よりハ五			(しょうじょうひ)	三荷		(おおいかけ)		
奉	持道具	尻籠	足	砲奉行	桐之金紋付					
乗物脇	歩行六人	一	二	立	なめし皮覆懸					
四人	乗物	本	荷	一人						

⑥対馬藩主

⑤尾張藩士御目付永井 太郎左衛門の行列

④朝鮮人の行列←

③対馬藩家老 平田隼人の行列



「」**さく**」=胡弓。朝鮮の楽器に
中国の二胡と同じ仲間の弓奏楽器
「奚琴」(ヘグム)がある。(図④⑤)
筆者は「奚琴」を見て「」**さく**」
をイメージしたのであろう。

【かつこ】『鞨鼓』雅樂で使用する打楽器で砂時計型をし、左手で調べ緒をもち、右手に持った木製バチで打つ。革は馬皮（図①）これに似た朝鮮の楽器に「杖鼓」（チヤング）がある。（図②③）杖（木の棒）で叩く砂時計型両面太鼓。筆者は、「杖鼓」を見て「かつこ」をイメージしたのである。

記念・協賛！ この秋、

五角形	樹枝葉
正方形	圓滿形
長方形	食葉性
三角形	弓狀枝
六角形	六角枝葉
七角形	七角枝葉
八角形	八角枝葉
九角形	九角枝葉
十角形	十角枝葉
十一角形	十一角枝葉
十二角形	十二角枝葉
十三角形	十三角枝葉
十四角形	十四角枝葉
十五角形	十五角枝葉
十六角形	十六角枝葉
十七角形	十七角枝葉
十八角形	十八角枝葉
十九角形	十九角枝葉
二十角形	二十角枝葉
二十一角形	二十一角枝葉
二十二角形	二十二角枝葉
二十三角形	二十三角枝葉
二十四角形	二十四角枝葉
二十五角形	二十五角枝葉
二十六角形	二十六角枝葉
二十七角形	二十七角枝葉
二十八角形	二十八角枝葉
二十九角形	二十九角枝葉
三十角形	三十角枝葉
三十一角形	三十一角枝葉
三十二角形	三十二角枝葉
三十三角形	三十三角枝葉
三十四角形	三十四角枝葉
三十五角形	三十五角枝葉
三十六角形	三十六角枝葉
三十七角形	三十七角枝葉
三十八角形	三十八角枝葉
三十九角形	三十九角枝葉
四十角形	四十角枝葉
四十一角形	四十一角枝葉
四十二角形	四十二角枝葉
四十三角形	四十三角枝葉
四十四角形	四十四角枝葉
四十五角形	四十五角枝葉
四十六角形	四十六角枝葉
四十七角形	四十七角枝葉
四十八角形	四十八角枝葉
四十九角形	四十九角枝葉
五十角形	五十角枝葉
五十一角形	五十一角枝葉
五十二角形	五十二角枝葉
五十三角形	五十三角枝葉
五十四角形	五十四角枝葉
五十五角形	五十五角枝葉
五十六角形	五十六角枝葉
五十七角形	五十七角枝葉
五十八角形	五十八角枝葉
五十九角形	五十九角枝葉
六十角形	六十角枝葉
六十一角形	六十一角枝葉
六十二角形	六十二角枝葉
六十三角形	六十三角枝葉
六十四角形	六十四角枝葉
六十五角形	六十五角枝葉
六十六角形	六十六角枝葉
六十七角形	六十七角枝葉
六十八角形	六十八角枝葉
六十九角形	六十九角枝葉
七十角形	七十角枝葉
七十一角形	七十一角枝葉
七十二角形	七十二角枝葉
七十三角形	七十三角枝葉
七十四角形	七十四角枝葉
七十五角形	七十五角枝葉
七十六角形	七十六角枝葉
七十七角形	七十七角枝葉
七十八角形	七十八角枝葉
七十九角形	七十九角枝葉
八十角形	八十角枝葉
八十一角形	八十一角枝葉
八十二角形	八十二角枝葉
八十三角形	八十三角枝葉
八十四角形	八十四角枝葉
八十五角形	八十五角枝葉
八十六角形	八十六角枝葉
八十七角形	八十七角枝葉
八十八角形	八十八角枝葉
八十九角形	八十九角枝葉
九十角形	九十角枝葉
九十一角形	九十一角枝葉
九十二角形	九十二角枝葉
九十三角形	九十三角枝葉
九十四角形	九十四角枝葉
九十五角形	九十五角枝葉
九十六角形	九十六角枝葉
九十七角形	九十七角枝葉
九十八角形	九十八角枝葉
九十九角形	九十九角枝葉
一百角形	一百角枝葉

70

⑥対馬藩主 宗義方の大行列

立笠 ビロードやラシャなどで作った袋に入れ行列の際に供の者に持たせた。

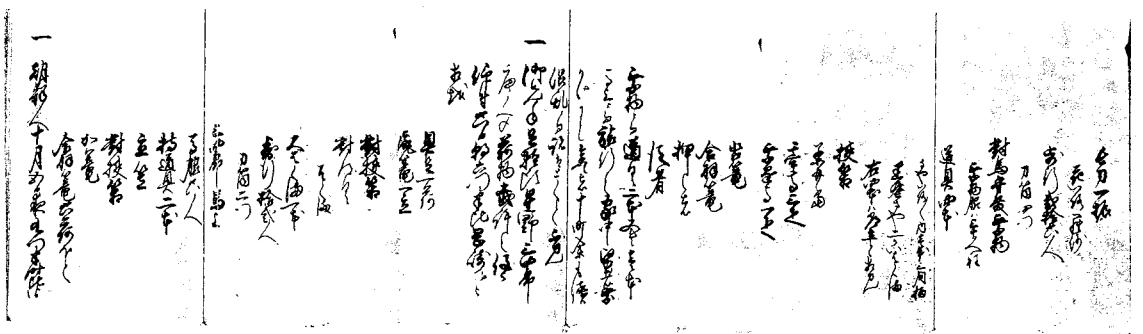


「合羽簾」=かつばかご 行列のときなどに、供の人の雨具をいれ、担わせた簾。ふたのある二つの簾で前後を棒で担いだ。



朝鮮通信使史料がユネスコ記録遺産に

7



乗物にて道具二本又は一本
馬上にて旅行之家、中、医者、乗
かけにて参じ候者、十町余も繞く、
混乱にて跡（あと）は、とくと見えず。
御先手足軽頭星野三四郎
唐人の荷物裁許之役仰せ付けられ
六日朝六つ半比（こう）岡崎へ
相越る。

云刀	一振
花いろ羅紗	
少行式拾六人	
刀筒四つ	
对馬守殿乗物	
乘物脇八三十人程	
追具四本	
さや、いろいろ、内壱本三間柄	
黒塗さや、二かいはくま	
右四本ハ常立と相見る	
拵箱	
余弁当	
乗懸馬(のりかけうま)	一疋
牽馬三疋	
籠	

⑦足軽頭 星野 三四郎の行列

⑥対馬藩主 宗義方の大行列

朝鮮人、合羽籠六荷ほど十月五日夜九つ半時比より

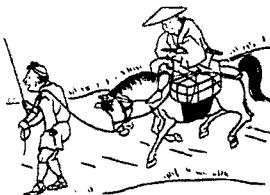
古羽筆 六荷ほと

三
四
郎
持
馬
道
脇
馬
筒
具
具
六
二
人
本

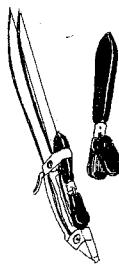
大
行
は
く
ま
拾
式
つ
入
一
本

対
対
尻
具
杖
篭
箱
具
一
立
荷

「乗懸馬」のりかけうま 荷駄と人間と一緒に乗せて運ぶ馬。



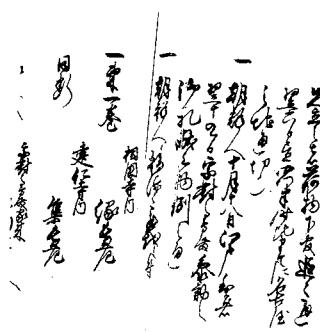
「四目結紋」
馬藩主宗家の家紋



「猩猩絣」はしようじようひ 黒みを
帯びた鮮やかな深紅色。またその
色の舶来の毛織物。
「空穂」 うつぼ 矢を入れる容器。
矢が雨に濡れないように矢全体を
納める細長い筒。

〔三使〕 =さんし 通信使の正使、副使、従事官のこと。正使は使節団の総責任者。副使は正使を補佐し、事務を助ける。従事官は毎日のことの記録し、帰国して国王に

記念・協賛！ この秋、



76

先立之者、荷物、下官、追々通る
翌六日、昼四つ半時比までに名古屋
之地通切る也。

「沓簾」=くつかご 武家の履物を
入れる簾。

【後略】



おわりに

最後に、この行列を見た二人の尾張藩士の記述を紹介しよう。

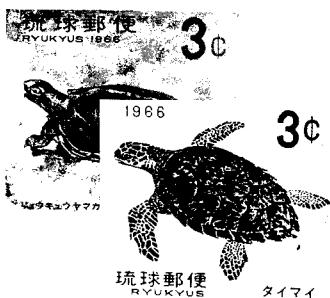
一人は、尾張を代表する考証学者天野信景である。彼はその著『塩尻』のなかで、行列の威容に神功皇后のいにしえに思いを馳せ感激しているが、一方、行列中の三使に注目し、「正使は四十ばかり、かたちうるわしく、冠服ゆへゆへし。副使、従事大方五十にも及びなん、いづれもいづれも容儀しづかに、君子の風あり。」と賞賛している。

いま一人は朝日文左衛門である。彼はその著『鶴籠中記』のなかで、行列を「酒売場」を見物席に仕立てて友人と一緒に見物したと記している。「対馬守家来夥し」と対馬藩の行列の人の多さに驚き、同僚の行列について、「星野三四郎、中川勝蔵、荷物を押え、鈴木定左衛門 韓人の先を乗る。長井（永井）太郎左衛門後を押す。いずれも揃え馬装束等見事なり。」とたえていた。残念ながら、朝鮮人の行列については何もふれて

いない。文左衛門は、行列見物のため、藩主（四代吉通）が正室を伴い城下の商家の屋敷に出向き、藩主の意向をうけて「梅昌院様」（三代綱誠の側室）、「二の丸様」、「御家老・御用人」等がそれぞれ商家の屋敷で見物に参じたとも記している。行列が始まつたのは辰時（午前七時～九時）、通り過ぎたのは巳刻（午前九時～十一時）過ぎと記す。これは「行列之次第荒増」が記す時刻とほぼ一致する。

なお、文左衛門は、通信使一行が名古屋に到着する前々日の十月三日に、娘おこんが韓人見物のため嫁ぎ先から帰ってきたと記しているが、このことに関しては、千田龍彦『尾張なごや傑物伝』宗春がいた 朝日文左衛門がいた（風媒社）を参照されたい。

祐子、種田祐司両氏に御教示を得た。貴重な時間を割いてください。
さつた両氏に謝意を表する次第である。



琉 國 物 語 ⑦

金城 博己 (琉球人)

(一九七二年五月十五日 沖縄返還記念式典会場)(つづき)

その頃砂川は、琉球警察の機動隊一〇〇人程と共に、民政府の建物を取り囲むように警護していた。まだ警護の必要があると、その倍以上の警護要請を警察幹部に出しているところだ。英雄は、民政府の職員と共に大里主席に付き添っている。まだ、落ち着く気配も無く騒然としたままの会場、演壇に立つたままの大里主席が英雄の方を向き、小さく手招いている。英雄はほんの五、六歩程の距離で大里主席の後ろに控えていたので、すぐに大里主席の傍によると、体が触れ合わんばかりに身を寄せた。大里主席は、実際は大声だつたはずだが、その声はやつと聞き取れる状態であつた。

「大宜見君。君はこれから、砂川君の応援に行つてくれませんか。砂川君は今、庁舎で大事な仕事をしています。きっと、君の助けが必要だと思います。私はこれから、後藤総理と大切なお話をしなければなりません。今は会場の方は比較的に安全は保たれていると思います。あなたは一刻も早く砂川君の応援をお願いします、庁舎で彼の指示に従つて下さい。」

秀雄は急いで庁舎に戻つた。そこで英雄が日にしたのは、百人以上はいると思われる機動隊が庁舎を取り囲むようにして、砂川の所在を尋ねたところ、地下の資料室に居るのではないかと言う。急いで庁舎の階段を下りながら、たしか資料室は閉鎖され、駐車場の南端の大きめのプレハブに、資料を整理のために運び

込んだはず。で、資料室は空っぽなはずだが。() と思ひながら地下に着くと、元の資料室の前で砂川は、四、五人の機動隊員と何やら話をしている。警備の内容を指示している様である。話が終わり、機動隊員らが地上にあがると、砂川は英雄の顔を見て、ニッコリした様に見えた。

「大宜見君、よく来てくれました。ちょうど君の助けが必要なところでした。ちょっと中に入つてみましょう。」

砂川の後について中に入ると、空のはずの資料室に部屋中ぎつしりとダンボールが詰まっている。広めの部屋だつたはずだが、ダンボールでいっぱいである。

「砂川さん、このダンボールは何なのですか。」

英雄は思わず、砂川に尋ねた。

「このダンボールの一箱には、日本円の高額紙幣で四億円が入っています。それが全部で二五〇個、重量にして約十トン、全部でいくらになると思いますか。」

英雄は、逆に問われて、あわてて計算してみる。

「一千億円になるじゃないですか、一体どうなつているのですか。」

「大宜見君。この前、自衛隊の艦船でドルと円との交換用に六百億円が、仰々しく沖縄に搬入されて来たのは、君も覚えていらっしゃいますが、あの六百億円のほとんどは小額紙幣と硬貨でして、重量も嵩も大きなものでした。ここにある一千億円は全てが高額紙幣で、十トンコンテナに誰にも知らないように、極秘体制で、日琉の申し合わせ通り、半年も前に運び込まれて

★琉球郵便切手（一九四五年米軍占領時から一九七二年五月の「本土復帰」まで、琉球で発行）から。

いたのです。

ただひとつ、日琉の申し合わせと違つたのは、銀行の金庫ではなく、府舎のこの元資料室に運び入れて素知らぬふりをしていたのです。ですから君が知らないのはもつこもなところです。このダンボールには日本政府の広報用の資料が入つているとしましたのですが、意外に誰も疑うこと無く、安全に保管されてきました。が、今となつては、日本政府が銀行の金庫の中を改めて、あるはずの一千億円がないと知るとどういう行動を取るか分かりません、それで機動隊の応援を頼み、警戒してもらつているのです。今頃は、大里主席が後藤総理と話し合つてはまずです。その結果で、このお金の行き先が決まつてくれるでしょう。」

大里主席は、会場内の小部屋に後藤総理を誘い、向き合つて

いる。「後藤総理、状況はご覧になられた通りです。」

「日本政府は、沖縄の自治独立を認める訳にはいけませんよ。」ハツキリした日調で、しかしながら、心なしか目をそらし加減に言葉を返す。

「それは、後藤総理として、日本政府として当然のお言葉とお受けいたします。ですが現実には、アメリカをはじめ諸外国からも早くも承認の声明を受けています。私ども琉国政府としてもその様に作業を進めいくところでございます。はなはだ勝手ではございますが、琉国政府としては日本政府に友好関係を望みますし、日本政府と絶交するなどは避けるべき事だと考えております。」

「あなたの方は、日米の沖縄返還協定をなんだと思つておられるのですか。国と国との約定を軽率に破つて、それで済むと考えているのですか。」と後藤総理が言葉を荒げる。

「ハテ？ 日米の返還協定と言われますが、その協定自体、私ども琉国に影響を及ぼすとお考えですか。協定が結ばれた時点

イヤ、その以前から、日米の間において協議された結果、協定が結ばれましたのは知つておりますが、その協議の際、当事者であります琉球政府は、一点の協議の余地も与えられず、協議書に署名される事もなく、そしてその場にさえ、私は出席した覚えもありません。当時の琉球政府、いや沖縄は、ある意味どちらの国にも属さない流浪の民島の様でありますれば、その、日米間の協定を私どもが承認しなければいけない事も無く、琉国政府に何らも影響を及ぼさないと考えるものであり、その事ゆえに諸外国からの承認を受けたものだと考えます。琉国政府として、私個人としても日本政府の承認が得られない事は残念ではございますが、日本政府の対応を当然の事として受け取らなければならぬと考えます。しかし、後藤総理が沖縄の返還につきまして、政治生命を賭して全力を傾けられてまいりました事は、結果の如何を問わず、感謝こそすれ、恨みつらみなどのは思いは微塵もありません。もとより、私どもの胸の内にも、心の内にもあり得ないものであります。その事実は、これまでの歴史が証明してくれているのだと考えます。今、私どもが言える事は、あなたは、眞実、沖縄の事を思つてくださり、日本国総理としての立場とは別に、あなたの心根に沖縄への格別の想いがある。それは間違いないのだと信じて、今、ここに、琉国の未来のために、ご理解をお願い致すところでございます。」

「はい、はい、はい。」分かりました、すぐにその様にさせていただきます。」

受話器を置いた砂川は、「大宜見君、このお金は、沖縄のために使える様になりました。堂々と、琉国のスタートのために使つてもいいんです。」

「日本政府は、琉国を承認したのですか。」

「いや、それは無理でしょう。日本政府としては、沖縄は、あ

くまでも日本国においての沖縄県だという見解を崩すことはないと思います。」

「では、何故このお金が自由に使えるという事になつたのですか？」

「その件は、正式な形式ではないと思うのですが、分かりやすくいえば、開発途上国に対する円借款とでも言えばよいのですでしょうか。しかし、琉球を承認しない上で、円借款というのもおかしな話ではあります。とにかく、後藤総理の一存で琉國側の申し出には応ずるという返事が頂けたそうです。しばらく後には、正式な発表があるでしょう。」

「ともかくにも、このお金をもとに琉球沖縄のスタートを切るのだ。総額一、六〇〇億円。」

「大宜見君、このダンボール二五〇個を二つの銀行の金庫に運び込むのを手伝つて下さい。二台のトラックが、地上に準備されています。」

その後、三〇分程で四億円の入ったダンボールが一二五個ずつ二台の大型トラックに積み込まれ、それぞれの銀行の本店金庫に一時間後には、無事に運び込まれた。ホッとしていた英雄は後ろに人の気配を感じて振り返つた。そこに立つっていたのは、那覇総合事務局の鈴木である。鈴木は、

「今回、日本政府は一つの大きな間違いをしました。長い事、薩摩の支配に苦しめられた歴史を持つ琉球を、会津出身の私に琉球政府の監視役を命じたのですから。私は逐一あなたの方の行動を監視、つまり、さぐつていたのですが、どうも政府への報告があややになつてしまつたようです。それに、あのダンボールの中身が何なのか知りませんし、知りたくもありません。今、私に分かつてるのは、私の出世はないだろうということです。」

言い終えた鈴木はくるつと背を向けて大通りを渡つていった。

(つづく)

◆第49回韓日歴史・文化フォーラム

高麗時代の大蔵経と仏事 —蔵経道場を中心として—



2017年
8月30日(水)
午後6時～

場 所／愛知韓国人会館 5階ホール
名古屋市中村区亀島1-6-2
地下鉄東山線「亀島駅」③出口より徒歩1分
参加費／500円 ※資料代として
主 催／韓日歴史・文化フォーラム実行委員会
後 援／駐名古屋大韓民国総領事館
在外同胞財團
講 師／安田 純也氏(滋賀県立大学 非常勤講師)

蔵経道場とは、高麗時代に大蔵経の転読を中心として開催された仏事です。大蔵経(蔵經)とは、釈迦の説いた教えをまとめた経蔵、教団の規則をまとめた律蔵、教理の研究をまとめた論蔵の三つ(三蔵)からなる、仏教経典の総体のことです。高麗時代の大蔵経と言えば、11世紀に刻板された初雕本と、モンゴルの攻撃で初雕本が焼失し再び13世紀中葉に刻板され、現在も韓国の海印寺に板本が所蔵されている再雕本の二つが、高麗版大蔵経として知られています。

蔵経道場は、『高麗史』によると、第8代国王顯宗の時代の1029年に王宮最大の宮殿である会慶殿で、1万人余りの僧侶への食事供養をともなって開催されたのが最初の記録として残っているものの、それ以前から開催されていたと推測されます。その後、第10代靖宗の時代の1041年に春秋2回開催される恒例行事として整備され、朝鮮時代の初期に廃止されるまで続きました。今回のフォーラムでは、韓国中世史(高麗時代史)を専門とする安田純也氏を招き、蔵経道場を中心に大蔵経と仏事とのかかわりについて話してもらいます。

【お申込・問合せ先】FAX:052-452-1716
E-mail:jigyo@mindan-aichi.org
韓日歴史・文化フォーラム事務局(民団愛知内) 金栄一(キム・ヨンイル) TEL:052-452-6431



同映画ポスター

鑑賞のおすすめ



[その23]

韓国映画（2014年）
「国際市場で逢いましょう
(국제시장)」

伊藤一郎

(朝鮮文化を知る会)

朝鮮戦争、軍事政権、そしてベトナム戦争など、韓国の激動の時代を家族のためにささげた主人公のドクスの生涯を描いた映画である。ドクスを韓国の名優ファン・ジョンミンが演じる。映画の全体を通してドクスの「家族のために」というテーマが貫いている。

映画は釜山地下鉄二号線のチャガルチ駅からほど近い現在の国际市场の喧騒から始まる。衣料や生活雑貨を売る店の中に食品を売る屋台が入り交じり、混沌とした状況を呈している。カメラは人々の間を自由に飛び回るモンシロチョウに先導されて迷路のような市場の様子を追う。

そしていきなり場面は一転して、

一九五〇年の咸鏡南道興南（現在の朝鮮民主主義人民共和国の東部）の灰色の風景に切り替わる。

人々の方言も咸鏡道方言に切り替わり、路上では毛布くるまる路上生活者が、雪が降りしきる氷点下の厳しい冬の寒さに震えている。朝鮮戦争における興南脱出作

上を飛行機が編隊で通り過ぎ少し離れた場所に爆弾を落とす。中国軍が興南に到着し、いままで国際連合軍が一斉に撤退して

いるさなか、軍艦・メロディス・ピクトリー号上では韓国人が撤退を命じた将軍に必死に訴えかける。「わが国民を助けて下さい。われわれがこのままこの場を去れば、すぐに出港しようとする軍艦の周りには、多くの避難民があふれている。必死に逃れようと人々が押し寄せる軍艦の乗船口では、国際連合軍の軍人が避難民を蹴散らし、拳銃で威嚇射撃を行う。そして乗船口は無情にも閉じられてしまう。乗船口が閉じられ、避難民が完全に見捨てられたかと思われたそのとき、将軍はおもむろに口を開く。

「この船に何名まで乗せること

ができるのか？」耳を疑う船員たちのなかで将軍は、船に積載した武器をすべて捨て、避難民を乗せることを命令する。開く乗船口を見て避難民は互いに抱き合つて喜ぶ。船からは、先ほど積み終えたばかりの戦車や軍用車が船から続々と運び出される。

戦車や軍用車と引き換えに避難民が船内になだれ込む。われ先にと避難民が船に殺到するなか、ドクスと父は、船に乗り込む途中で妹のマクスンを船の下に落として

西ドイツの炭鉱への採用試験に
のぞむドクス



・ビクトリー号は一万四千名の避難民を乗せて出港した。

場面は一転して、一九五一年の金山・国際市場。

ドクスの父は興南でドクスと別れる際、金山の国際市場の叔母の店「コップ二（日本）」での再会を誓つた。ドクスは母と二人の弟妹の家族六人で叔母の店「コップ二」を探す。

叔母と会った家族四人は、「コップ二」の納屋で新しい生活を始めた。ドクスが学校で同級生に北の興南から来たことを明かすと「お前はパルゲイン（アカリ共産主義者）か」とののしられる。

混沌とした弱肉強食の市場のなかで、ドクスは靴磨きで家計を助け、時にはアメリカ兵にチヨコレートをもらつたりする。街角のラジオからは、アメリカ帰りの李承

家族が優先だ。分かつたか。」

そして妹のマクスンを救うため、最後の言葉を残して船を下りる。

「どのようなことがあろうとも、死体が浮かぶなかで父は妹を探し回るが間に合わない。無情にも船に乗れなくて力尽きた人々の水

う。父と妹を残して出港してしま

出港後、街は炎に包まれる。炎と煙になつた街を前に、船上の避難民は号泣する。メロディス

刻む。ドクスは家族のため、ソウル大学に合格した弟の学費を稼ぐため、西ドイツ（当時）の炭鉱に出稼ぎに行く。異国での炭鉱の重労働でドクスの目に希望はない。お前は家族をきちんと守つた。

「お父さんにすつと会いたかったのです。」号泣するドクスの手には、父と興南で生き別れた際に厳しい作業中の負傷者が続出する。炭鉱の現場や劣悪な二段ベッドの寮では、常にドクスの同僚の泣き声が聞こえる。

当時、応募書類をきちんと作成できる人材のみが応募したため、炭鉱労働とは無関係の高学歴の青年が多く炭鉱に従事していた。そ

れによつて不慣れな仕事に伴う事故が多発したという。厳しい生活のなかでもドクスは、生活のため

韓国人男性がドクスに自らの姿を重ね合わせたという。ドクスは肉親との再会がかなつたが、いまだに北と南で生き別れた離散家族が存在する。

限りある字数のなかで、映画の映画でドクスは、分断された南北朝鮮の激動の歴史を生きた。二つの世界を生き、慶尚道方言と咸鏡道方言の二つの方言を話していく。

ある日、炭坑内で事故が発生する。変化の多い社会を描いた映画だけに、映画の登場人物は、時に

ドクスたちを救うために制止を振り切つて再び炭鉱に入る。炭鉱に生きるとは何かを考えさせられる

映画であった。

し、心臓マッサージをする。そしてドクスは奇跡的に息を引き返す。

「泣くな、ドクスよ。ありがと。お前は家族をきちんと守つた。」

死のドクスの口から石炭を掻き出

「どのようなことがあろうとも、ドクスは父の言葉を繰り返し胸に語りかける。

息子は父の言葉を見ながら酒を飲む。父はドクスに語りかける。

「日本の報道ではあまり注目されなかつた朝鮮民主主義人民共和国の、ある論評について、都宗樹さんから投稿がありました。二回に分けて紹介。今回の（下）は『解説編』です（編集部）】

朝鮮、中国を比る

朝中関係の柱を切り倒す無謀な
言動をくりかえすことなかれ（下）

都宗樹

1 盟友の立場

論語は中国を説いて：①米国
の力に押され：②目前の利益に目
がくらみ：③兄弟の友情まで捨て
るならば、④朝中関係の柱を切り
倒し：⑤誰の信頼も得られない、
と論難している。朝中関係の本質
を反帝自主を戦う盟友であるとす
る立場に立つものだ。

東北アジアの情勢を緊張させ米国の戦略的配置を強化させる口実を提供している。
：朝中関係の主導権は自らの手にあり、授けがなければ生きていけないであろう、等、大国主義、覇権主義的であり、帝国主義の笛に踊るありさまである。朝鮮については、あるまじき背信である。
朝鮮は単独でも、自國の生存とした主権、時代の要請である自主権を守るために米国と戦う意思と力を備えているが、中国と米国の協調は背信と断じている。

朝中は抗日戦、中國内戦、抗米朝鮮戦争を共に戦い、社会主義革命の道を切り開いてきた。反帝、反霸権、反大国の新しい世界の創造者たらんとした。第三世界の主権、自主権の確立、米国への支配する「国際秩序」からの解放である。

ところが、朝米の核対決がクライマックスに達するや、中国は米国の『国際社会』の「見解」に同意する。

中国は、：：中国的国家的利益に脅威となる。：：関係悪化の責任は

2 核は許しがたい大量破壊兵器である

広島と長崎を世界は知る。大虐殺の都市を知る。核保有五大国はその核によつて、「世界秩序」の覇者となつた。

ここ七十年間、戦火が世界各地に広がっている。核を手にした国

の横暴である。許しがたい。朝鮮もその標的の一つにされた。朝鮮人たちは半世紀にわたり、米国の核の脅威に悩まされ続けた。世界の知らない未曾有の体験を持つ。国家の主権、自主権は七十年間核恫喝に脅かされ続けた。主権と自権は絶対的な尊厳であり、最高の利益である。

「しかししながらこれらのすべてを故意に封じ破廉恥にも米国が言う『国際社会の一致した見解なる』ものに連なる：」のかと、朝鮮は中国を叱る。両国の対米政策のもたらした相異から生じたものであらう。

朝鮮民主主義人民共和国は大国の核による覇権をねついに核で以て制することを決意した。反帝反侵略に抗した、全人民的抗争論は大量破壊には大量破壊で応える奇手をはなつた。

五大国の大核独占体制の横暴と大國主義にあぐらをかく世界戦略の常識は大きくゆらいだ。(1)反核の市民運動、(2)反核の国連決議の動きがある。(3)ここに(小国の核による)覇権国の大核独占と不当な小国への恫喝戦略への一矢がはなたれた。

朝鮮の核をどう評価するのか。米国の「国際秩序」に、NPT体制に反する邪惡な戦争狂の米国から、自主と主権、世界平和を守るものかと問われる。非核化への一石となろう。朝鮮と中国は盟友である。

反米、社会主義と自主の旗を守る闘いで志と力を合わせてきた。

力を強めた。

一九七二年の「チームスピリット」侵攻演習の恒例化である。国連安保理事国となり、世界資本主義市場への参入、世界の「工場」へと、中国は米国との戦略的パートナーに成り上る。

一方朝鮮は経済封鎖、軍事進攻の標的、情報戦の標的となり、国家崩壊へと圧迫された。

朝鮮の統一問題に關しても、米国の分断固定化に追従するのみで、米国連への南北同時加盟に従い、中国の韓国承認をもたらすが、米国の朝鮮承認を果たすことはなかつた。

その後の一九九四の米国の大核問題に際しては、ついに国連安保理の名による制裁に連なつてしまふ。

その後の一九九四の米国に対する朝鮮軍事進攻計画等の朝鮮国の国家存亡の危機に際してもさしたる動きはなかつた。

核問題に際しては、ついに国連安保理の名による制裁に連なつてしまふ。

自國の平和的環境への保障を最優先する、六者協議においても、米日韓による「魔女狩り」裁判に与するのみであつた。米国の朝鮮国への不当な抑圧のは是正に、国際世論を喚起することもできなかつた。ごく最近の中露トップ会談で、米軍の対朝鮮軍事演習の中止をようやく言及している始末である。

③、朝中関係をふりかえつてみる

(①民族解放(独立)戦争時期)
「日中十五年戦争」と呼ばれる
時期、中朝ゲリラは共に抗日戦を
戦つた。

②国共内戦時期
(一九四五年～一九四九年)
中国共産党の中国革命に朝鮮人
部隊約三五万が参戦し、海南島解
放まで共に戦つた。朝鮮は中国共
産党軍の後方地帯となり、中国革
命成功に大きく寄与した。

③朝鮮戦争
(一九五〇年～一九五三年)
朝鮮の南北分断により、朝米間
戦争が勃発。中国は「中国を守り、
朝鮮を支援するため」に、米国に抗
する」と五十万の義勇軍を朝鮮に
おくる。

②国共内戦時期

一九四五年—一九四九年

③朝鮮戰爭

(一九五〇年～一九五三年)
朝鮮の南北分断により、朝米間
戦争が勃発。中国は「中国を守り、
朝鮮を支援するため、米国に抗
する」と五十万の義勇軍を朝鮮に
おくる。

④国際共産主義運動内の分裂

「中ソ論争」に見られる社会主義
内の対立が表面化した時期、朝鮮

労働党は反帝反米闘争の最中での公開論争に反対を表明。特に党代表者会議を開催して、『自主性を擁護しよう』を発表する。帝国主義と大国主義を共に批判する。朝鮮の自主性、世界の自主性の時代を強く主張する。

⑤中国・米国の国交正常化時期

一九七二年のニクソン大統領の訪中によつて、その後両国の国交正常化、中国の国連安理会入りが決まる。国民党はこれを変じが起

(6)南北朝鮮の国連同時加盟
米ソデタント（緊張緩和）は朝鮮半島情勢に大きな影響を与えた。ソ連、中国の韓国承認である（一九九〇年と一九九二年）。しかしクロス承認を主張していた米国と日本は朝鮮承認を行うことをしなかつた。朝鮮国にとって国際的孤立を招きかねない情況がつくりられた。

ツシユが合意枠組みを壊す。
※平岩俊司氏は、『独裁国家・北朝鮮の実像』で、「…私はやっぱりアメリカが壊したと思いますよ。…クリントン政権はアメリカの議会に対して、『北朝鮮という国は今後五年もたなない』と説得した…」
「…でも崩壊しない、『おかしいじゃないか』と『合意』以外の話を持ち出したからである」と語る。

まる。国際秩序に大きな変化が起る。キッシンジャーの外交戦略は、社会主義陣営内の論争に乘じて、その外交的分野にまで至らしめた。また米国の対社会主義政策に、大国とは対決をさけ、小国を各個撃破するせんりやくへの布石となるものであった。

朝鮮労働党は「クソン訪中を「米国が白旗をかかげて訪中した」（金日成主席）とその外交関係を評した。同時に新たな帝国主義と社会主义大国による覇権主義を予見す

朝鮮が社会主義市場を失い、大
自然災害を受けて危機に陥るや、
米国は一九九三年、九四年に軍事
介入を決意する。朝鮮は対米「準
戦時態勢」をとり、戦争前夜の危
機直前に、朝米会談の席に着かせ
る。

金哲論文は、朝鮮が米国との最終決戦の段階に入った時に發表されたもので、たんぐくでの対米戦を表明するものもある。

⑧六者協議

一九九四年「朝米合意枠組み」が成立して、朝米の新たな関係が

⑥南北朝鮮の国連同時加盟になる。

出発したかのように見え
ツシユが合意枠組みを壊す

た
か
フ

いま面白い市民運動の情報誌

グループ紙誌

拌兒

●瀬戸地下車両工場跡を保存する会会報

名古屋市東区
○二〇一七あいち平和行進／核兵器を廃止し禁止する条約を！
○【草ノート】戦後七二年、沖縄の不発弾。なお二〇一二トン埋蔵、処理に七〇年
○「ヒバクシャ国際署名を進める愛知県民の会」設立総会／七月三十一日午後一時、イープル名古屋

○第五回 愛知大府飛行場中国人強連合会／名古屋市千種区末盛通
○雲南省に少数民族を訪ねる旅①

制運行被害者を支援する会総会開催（五月二八日）報告

○「ヒバクシャ国際署名を進める
愛知県民の会」設立総会／七月三
十日午後一時、イーブル名古屋

●あま東部 (No.九五)二〇一七・六・一八発 行／あま東部平和委員会／海部郡 大治町)

○数の暴力！ 現代版治安維持法
『共謀罪』强行成立／この国の民

○「市民アクション@あいち九区」

○野党共闘実現へさらに一步：濱

○【あいち平和行進】あま東部口

ース／あま市は今年も市幹部らが出迎え／今年も精頑＼又座が美農

出迎えの年も清須乙女座が美濃
路を盛り上げる

青年将浦山で聞くにほか

(第三七九号)二〇一七年七月六日
発行＝原水爆禁止愛知県協議会／

●日中友好新聞・愛知県連版

ほか



戦争展ピースステージプログラム

8/10(木)	11(金)	12(土)	13(日)
●11:00～ 中区栄の空襲体験 岩 正男さん	●11:00～ ヒロシマ・ナガサキの被爆体験 歴友会	●11:00～ 辺野古の現状 自埼 茂和さん(三沢大学名誉教授)	●11:00～ 撫順炭鉱と 平頂山事件 済南皇宮博物院研究 日中友好会委嘱会議
●12:15～ そう列車がやってきた 小出 雄司さん	●12:15～ 体験者が語る「悲劇の狂気」 平和姫倶会	●12:30～ 映像で見る沖縄 命どう宝	●13:00～ 外延化する自衛隊 飯島 浩明さん (名古屋学園大学教員)
●13:00～ 安倍政権による改憲の新たな動き 本 秀紀さん(名古屋大学大学院法学研究科教授)	●13:30～ 共謀罪で国民生活はどうなる? 岩井 浩二さん(弁護士)	●13:45～ 憲法9条と安保法との矛盾 ～南スダーン撤退の力 日報新聞講座から～ 布施 純仁さん(平和新聞編集長)	●13:00～ トランプ政権と日米安保...～アメリカに おける選択に対するコントロールの可能性 三宅 浩一さん(三重短期大学教授)
●15:15～ 宗教と戦争 大東 仁さん (近畿大谷派・鷹院寺住職)	●15:30～ ふたたび 戦争は教室から 始まる のかー「教育勅語」と 福澤諭吉 一 安川 有之助さん	●15:00～ 名古屋市北区の空襲体験 大島 良満さん	●14:15～ 私にとって 「日本軍慰安婦」と 愛知 大耳耳「政治と平和」 アシア太平洋平和文化オーラム 問題の解決をすすめる
●16:30～ 宗教と戦争 大東 仁さん (近畿大谷派・鷹院寺住職)	●16:15～ 座談会「政治と平和」 アシア太平洋平和文化オーラム		

制運行被害者を支援する会総会開催
（五月二八日）報告
○【稲沢支部講演会】竹内テル子
さん『満洲で、敗戦から引き揚げ
までの一年二ヶ月の体験』

ほ
か

日本と朝鮮 / 愛知版

■発行/日朝協会(発行責任者=石橋正夫) ■昭和28年11月30日 第三種郵便物認可
■編集/日朝協会愛知県連合会事務局 ■464-0853 名古屋市千種区小松町6-9-1
■Tel/Fax/052-731-9445 ■E-mail/y-koide@mse.biglobe.ne.jp

2017年7月(408)号 サイト/<http://www.aichi-niccho.com/>